

## 新技術による治療を開始しました！

名古屋陽子線治療センターでは、これまでの最新技術による照射をさらに発展させた強度変調陽子線治療（IMPT）を開始し、その一例目となる治療を予定どおり終了しました。

今後、この照射法による治療に積極的に取り組んでいくとともに、より複雑な形状の腫瘍にも対応できるようさらに開発を続けてまいります。

### 強度変調陽子線治療（IMPT）の特長など

IMPTは、スポットスキャンニング照射の発展形であり、腫瘍内部の場所により線量強度を変えて照射する方法です。

別紙の一例目の症例のように、呼吸による動きがない腫瘍で、病変部が重要臓器に密接するため、スポットスキャンニング照射よりもさらに腫瘍周囲の線量を下げる必要がある症例が対象になります。

複数方向からの照射を組み合わせることで、これまでの照射法に比べてさらに照射対象以外への影響を抑えられることが特長です。

（想定される対象疾患）

- ・呼吸による動きがない腫瘍で、病変部が重要臓器に密接しているもの

※具体的な適応は当センターの医師の診察が必要となります。

お問い合わせ先

名古屋市立西部医療センター

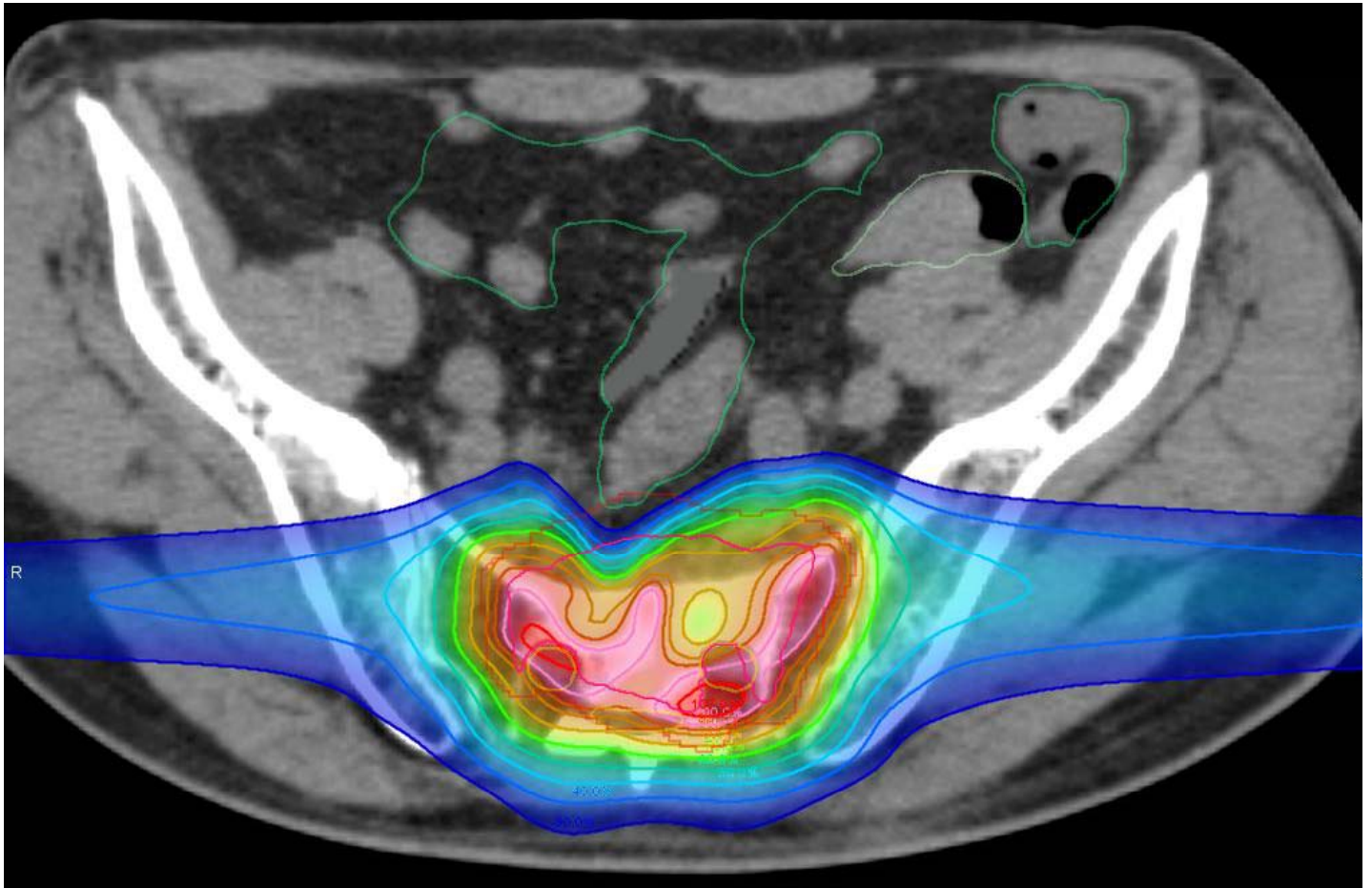
電話（052）991-8121（代表）

- ・ 受診手続きについては・・・地域医療連携室
- ・ 陽子線治療については・・・運営企画室

## <治療一例目の概要>

患者：直腸がんの手術後、骨盤内リンパ節に再発した患者（40代）  
治療終了後、1週間経過した現時点において、特に問題は見られていません。

### 【線量の状況】



仙骨前面の線量集中が高い一方、腹側にある小腸の線量はわずかとなっています。